

参加型音楽イベント「おんがくポッケ」への取組み

古山典子 (就実大学)

Approach on Participatory Music Event

Noriko KOYAMA (Shujitsu University)

抄 録

就実大学人文科学部初等教育学科の古山ゼミナールで音楽教育を学ぶ3年生が主体となって開催した、参加型音楽イベント「おんがくポッケ」について報告する。本イベントは4歳から8歳までの子どもを対象としたもので、内容は、ボディパーカッションによる「リズムで遊ぼう!」、音楽紙芝居「ブレーメンの音楽隊」、「楽器紹介&楽器に触ろう」、わらべうた遊び、「みんなで合奏!《「天国と地獄」序曲》」であった。実施した結果について、保護者へのアンケートの回答をまとめた。その結果、音楽を実際に体験するイベントに対するニーズが高いこと、保護者は音楽経験を通して音楽的諸能力だけではなく、集中力や好奇心、そして他者とのコミュニケーション能力や協調性を育むことを期待していることが明らかになった。本イベントはゼミナールの一環として行ったが、学生にとっては、子どもたちが音とかかわる中で見せる、音が鳴る仕組みを考える姿や音の鳴らし方を自分なりに工夫する姿に接し、子どもたちが自ら学んでいく過程を知る機会となった。

キーワード：音楽活動、音楽指導法、音楽能力、地域貢献